

7月の植物 マタタビ 学名 : *Actinidia polygama* (マタタビ科)

6月頃から山の斜面をみると白い花と見間違えるほど、真っ白になった葉が目立ち始める。その葉の正体はマタタビで、花の時期に葉が白くなる県内の山地でよく見かけるツル性の落葉樹である。葉が白くなるのは開花したことを訪花昆虫に知らせるためとも言われている。マタタビの名前は、疲れた時に甘い果実を食すると「再び旅ができる」とのことからである。しかし、実際果実はあまり甘くないようである。同じマタタビの仲間のサルナシが甘酸っぱく美味しいとのことで、ぜひ今年の秋に試したいと思っている。

葉の陰に隠れるように、マタタビは写真のような可憐な花を咲かせている。7月も過ぎると花を見ることはやや難しいかもしれないが、花が咲いている様を是非見ていただきたい。マタタビには雄花の咲く雄株と雌花および両性花の咲く雌株がある。果実は正常に生育した楕円形のものとは虫こぶができデコボコに膨れたものの2種類があり、虫こぶの果実のほうが薬効があるそうである。



白いペンキで塗られたように白くなったマタタビの葉



両性花：葉腋に一つずつ咲く



雄花：枝に2~3つ咲く

2016.6.5 神崎市脊振町鹿路